

前号から3回にわたり、「SDGs」について連載しています。今回は、JIA 建築家大会2019 青森での海外建築家協会会長による国際会議 (IPF) を受けてSDGsのキーワードや構造、概念について岩村和夫氏に執筆いただきました。

SDGsと建築家

—国際会議 JIA IPF 2019 in Hirosakiから—



JIA フェロー
岩村和夫

1. JIA IPF (International Presidents' Forum) とは

JIA 建築家大会は毎年支部の主催で開催されるが、その開会式に先んじてIPFの場が持たれ、午前中の約2時間にわたって意見が交わされる。そこではJIAと親交のある海外建築家団体の会長等が、その時々的重要なテーマに関する組織的取り組みのプレゼンと議論の主役となる。会議の外題についてはJIA本部の国際委員会(構成は文末参照)が精査し、事前に出席者とやり取りをして準備するとともに、当日会議の運営にもあたる。

筆者は、今回を含めこれまで何度か司会やモデレーターとして関わってきた。残念ながら、言語等の問題から国内からの参加者は少なく、その会議の存在自体さへあまり知られていない。

2019年は近年世界中で話題となっている「SDGs(持続可能な開発目標)」と建築家との関係性を巡って、去る10月18日に弘前で開催された。折しも、『SDGs建築ガイド日本版』(和英併記)(図1)が10月初旬にJIAから発刊された直後のことであった。



当日の発表者はアメリカ、タイ、韓国(KIRAとKIA)、スウェーデン、ARCASIA、そして日本の会長等で、熱心な議論が交わされた。本文は、筆者によるその現場でのまとめの抜粋である。

図1 『SDGs建築ガイド日本版』表紙

2-1. 外題解説

「17のSDGs」は2015年に国連が掲げた野心的かつ崇高な達成目標の声明である。そのいくつかは建築環境のデザインと直接的に関連している。また、その他は建築やランドスケープのハードウェアから間接的な影響を受けるだけの場合もある。

SDGsは極めて幅広い人間の生活領域をカバーしており、その声明の内容は必然的に一般的で曖昧である。それ故に、建築家はどのような計画をしようが、1つか2つ、

あるいはそれ以上の目標を満たせるような解釈を、常に見出すことができる。

仮に、ある目的のための一連の基準が曖昧にすぎ、したがってそれを満たすことが容易だと、その目的は本質的ではないブランド化のためだけに利用される恐れがある。しかし、SDGsは人類が直面する重大な課題に取り組み、我々がデザインの職能を通して前向きな結果や効果をもたらすことを望むような、一連の重要な価値観を指し示している。

そのためには、達成すべき目標の深い理解と、それぞれの目標の真に重要なことを成し遂げうる、我々の職能に関する創造的思考が不可欠である。

(文責：JIA国際委員会／杉山久哉、岩村和夫)

2-2. 発表者への事前の問いかけ

問1：あなたの国や地域ではSDGsに対する熱意があふれ、プランナー、建築家、デザイナー、政策立案者の間の議論や実践事例は豊富か？ もしそうなら、その成功した事例について説明されたい。また、そうでない場合、それはなぜか？

問2：あなたの組織は建築家の職能団体としてSDGsの理解を広めるプログラムを提供し、建築に適用するための教育を行っているか？ 行っている場合、その内容はどのようなものか？

3. 国際会議の発表者



六鹿正治
JIA 会長



W.J. ベイツ
AIA 会長 (米国)



T. チラピワット
ASA 副会長 (タイ)



ソク・ジョンフン
KIRA 会長 (韓国)



カン・チュルヒン
KIA 会長 (韓国)



T. ヨクシモビッチ
SA 会長
(スウェーデン)



S.N. タンダナンド
ARCASIA 元会長
(タイ)

4. IPF2019におけるキーワード群

各発表者からは、それぞれの国や地域の特性や、社会・文化を反映したプレゼンがあった。以下はそこから抽出したSDGsの課題や取り組みを象徴する一連のキーワード群である。

Accessible誰でも使える／ Adaptive適応力のある／ Affordable入手し易い／ Awareness認識／ Biodiverse生物多様性／ Clean汚染しない／ Collaborative共同性／ Connected繋がり／ Creative創造的／ Cultural文化的／ Decent品格のある／ Durable冗長な／ Economic経済的／ Ecologicalエコロジカルな／ Environmental環境的な／ Equitable公平な／ Healing癒し／ Healthy健康な／ Human人間的な／ Inclusive包摂的な／ Innovative革新的／ Involved参加的関わり／ Low-costローコストな／ Recyclingリサイクル／ Regenerative再生力のある／ Renewable再生可能な／ Resilient復元性のある／ Safe/Secure安全な／ Social-responsible社会的責任／ Sustainable持続可能な／ Symbiotic共生的／ Transparent透明性／ Universalユニバーサル／ Upcycleアップサイクル／ Vernacularバナナキュラーな／ Vital生命力溢れる／ Well-being福祉性 etc.

5. SDGsのトリプル・ボトムライン

以上を整理すると、そこに1997年に生まれた持続可能な企業の決算書における〈トリプル・ボトムライン（環境・経済・社会）〉の構造が現れてくる。



図2 「SDGsと建築家」のための持続可能なトリプル・ボトムライン

6. SDGsという社会的価値の変革を生み出す3つの柱

そこに含まれていない時間的な概念を、変革のプロセスとして表現すると、以下のようなステークホルダーの3層からなる3本柱の動的構造が見えてくる。SDGsはそうした概念とともにある。

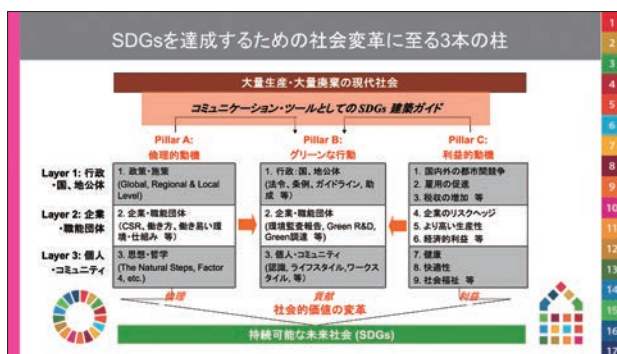


図3 SDGsの達成と社会的価値の変革

©Kazuo IWAMURA 2019

7. フォーカスティングとバックカスティング

そして、このSDGsを達成する時間的な概念には2つの方向性がある。まず1つは〈フォーカスティング〉で、図4のように過去や現状に関する分析から、トレンドを帰納的に描く未来である。もう1つは、図5のようにまずあるべき未来 (SDGs) の姿を具体的にイメージし、一步一步現在に戻りながら目の前の問題や課題を演繹的に克服しようとするものである。これを〈バックカスティング〉と呼ぶ。

我々建築家は、計画・設計・デザインの対象が何であれ、常にこの2つの時間的な方向性を持った取り組みを生業としている。要は、そうした方法論と達成目標を認識しているか否かである。

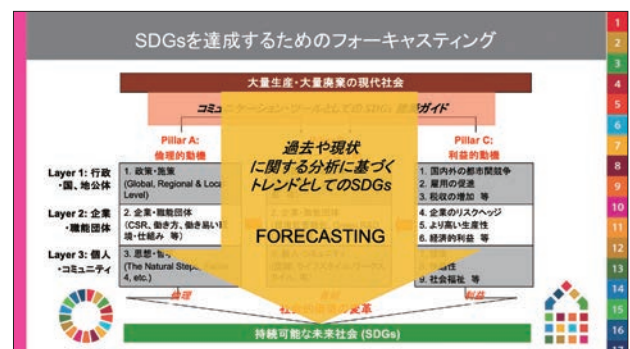


図4 フォーカスティングによるSDGsの達成

©Kazuo IWAMURA 2019

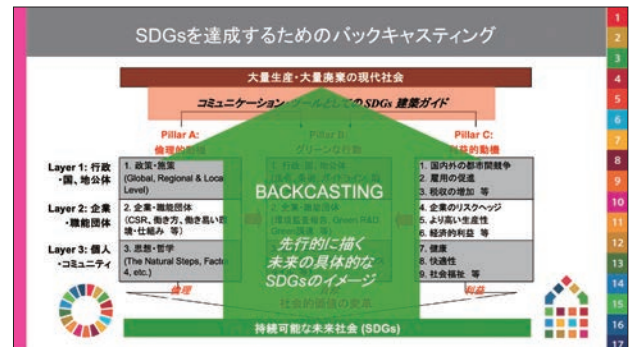


図5 バックカスティングによるSDGsの達成

©Kazuo IWAMURA 2019

8. おわりに

発表者のプレゼン内容は、著作権の関係でここにはまだ掲載できないが、毎年のことながら興味深いものばかりであった。今年10月末にはJIAが「SDGs建築フォーラム」を開催する。そのウォームアップの意味からも、大変貴重な機会となった。今後は参加者増加等の方策をはじめ、国内における国際化を推進することが不可欠である。関係者のさらなる努力に期待したい。

■ JIA国際委員会の構成 (2019年11月現在)

委員長代行 : 竹馬大二
委員 : 藤沼 傑、戸部芳行、岩橋祐之、田口純子、
薩山晶久、黒嶋成洋、津賀洋輔、斎藤慎一
国際担当理事 : 高階澄人
アドバイザー : 岩村和夫、国広ジョージ
オブザーバー : 杉山久哉、坂田 泉、新井今日子